

麻疹・風疹・おたふくかぜの予防について

作成日 2019年9月4日

1. 麻疹・風疹・おたふくかぜのリスク等について

麻疹は、麻疹ウイルスによる感染症で、空気感染、飛沫感染、接触感染で伝播します。2015年に世界保健機構により、日本は麻疹排除状態と認定されましたが、以降も輸入例と国内での2次感染例が報告されています。2019年は世界的な麻疹流行により、7月時点で前年の3倍の患者数が報告され、国内での患者数も増加しています。麻疹を発症すると、肺炎や中耳炎を合併しやすく、先進国でも1000人に1人は死亡するといわれています。

風疹は、風疹ウイルスによる感染症で、飛沫感染で伝播します。2013年の流行後、減少傾向でしたが、2018年より再流行を認めて、2019年には先天性風疹症候群の症例も報告されています。風疹の患者は、特に30～50代の男性が多くなっています。症状は、全くない人から、稀に脳炎や血小板減少性紫斑病などの合併症を起こすこともあります。風疹に対する免疫が不十分な妊娠20週までの妊婦が感染すると、眼や心臓、耳等に障害をもつことも（先天性風疹症候群）が出生することがあります。

おたふくかぜは、ムンプスウイルスによる感染症で、飛沫感染で伝播します。耳下腺が主張することが特徴で、髄膜炎や難聴、精巣炎などの合併症を起こすことがあります。髄膜炎は1～10%に認め、不可逆性の難聴（片側性が多い）は0.1%、精巣炎は成人で30%に認められます。

2. 麻疹・風疹・おたふくかぜの予防

いずれも、手洗いやマスクでは十分に予防できず、ワクチン接種による予防が最も重要です。確実に予防するためには、記録で確認ができる2回の接種が推奨される他、過去に感染している可能性がある場合には、抗体検査で評価することができます。

3. 麻疹・風疹・おたふくかぜワクチンの種類（費用については別紙のワクチン価格をご参照下さい）

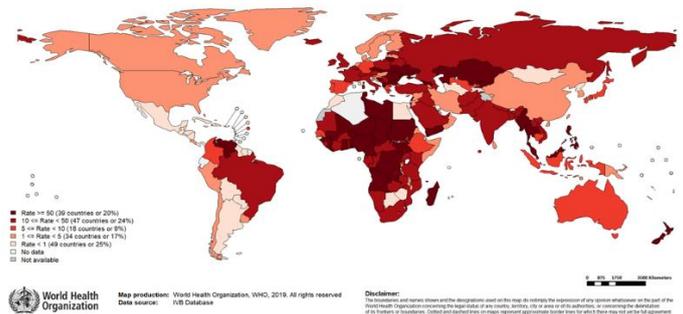
裏面参照

4. 麻疹・風疹・おたふくかぜの予防接種が推奨される対象者

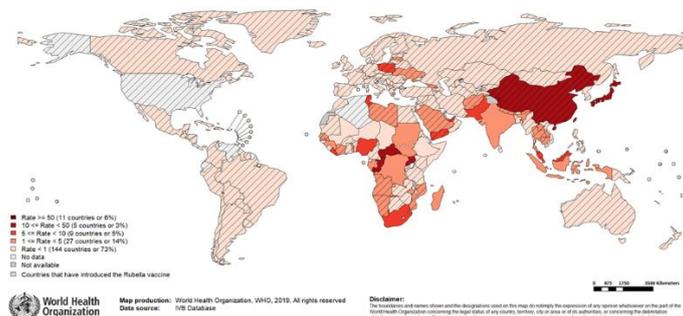
免疫のない者もしくは不十分なもの：具体的には、これまでに予防接種を接種していない、もしくは1回のみの方

5. 副作用が生じた場合の対応

予防接種後の副作用は接種部位の腫れ等の頻度が高く、数日の経過で自然に軽快することがほとんどですが、日常生活に支障のある副作用に対しては、医療機関を受診いただき、評価の上、对症療法を行うことがあります。また、当院で取り扱っているワクチンは、国内外で多数の接種実績があり、重篤な副作用が起こることは極めて稀ですが、国内未承認ワクチンについては、重篤な副反応が起こった場合に適用できる公的な補償制度がありません。代替として民間企業による自社補償制度の適応となる場合があります。また、女性の場合、予防接種後から1～2か月は妊娠を控える必要があります。



麻疹 (WHO, 2019)



風疹 (WHO, 2019)

3. 麻しん・風しん・おたふくかぜワクチンの種類

| | Priorix® | ミールビック® | おたふくかぜ生ワクチン® |
|---------|---|--|--|
| 製造会社 | GlaxoSmithKline | 阪大微生物研究会 | 北里第一三共 |
| 承認取得 | WHO-PQ 2013/3/9 | 2005年7月25日 | 1980年6月10日 |
| 投与経路 | 皮下注射 | 皮下注射 | 皮下注射 |
| 投与量 | 0.5mL | 0.5mL | 0.5mL |
| 内容量 | 弱毒麻しんウイルス（Schwart株）1000TCID ₅₀ 以上 弱毒風しんウイルス（Wistar RA27/3株）1000TCID ₅₀ 以上 弱毒生ムンプスウイルス（RIT 4385株）1000TCID ₅₀ 以上 ソルビトール 9mg | 弱毒麻しんウイルス（田辺株）5000PFU以上 弱毒風しんウイルス（松浦株）1000PFU以上 乳糖水和物 18mg D-ソルビトール 5.4mg カナマイシン硫酸塩 36μg以下 | 弱毒生ムンプスウイルス（星野株）5000CCID ₅₀ 以上 乳糖水和物 5.0W/V% D-ソルビトール 1.8W/V% エリスロマイシンラクチオン酸塩 10μg以下 カナマイシン硫酸塩 10μg以下 |
| 回数 | 1回量 0.5mL を 2回 | 1回量 0.5mL を 2回 | 1回量 0.5mL を 2回 |
| 効力 | 1回接種した後の抗体陽転率は、麻しん 98.0%、風しん 99.3%、おたふくかぜ 96.1% (Product Information) | 健康小児 216名に1回接種し抗体陽転率は、麻しん 99.1%、風疹 99.5% (Product Information) | 乳児 241名に接種し、接種後1～12年に発症したのは1例 (Product Information) |
| 追加接種 | 不要 | 不要 | 不要 |
| 禁忌 | 本剤の成分による重度アレルギー中等度以上の急性疾患 免疫抑制者 | 本剤の成分による重度アレルギー中等度以上の急性疾患 免疫抑制者 | 本剤の成分による重度アレルギー中等度以上の急性疾患 免疫抑制者 |
| 妊婦・授乳婦 | 妊娠中の接種は推奨されない 乳児へのリスク増加は証明なし | 妊娠中の接種は推奨されない 乳児へのリスク増加は証明なし | 妊娠中の接種は推奨されない。 乳児へのリスク増加は証明なし |
| 効果 | 麻しん・風しん・おたふくかぜの感染予防 | 麻しん・風しんの感染予防 | おたふくかぜの感染予防 |
| 副作用発生頻度 | 10%以上 発熱、局所の発赤 10%未満 発疹 0.1%未満 熱性けいれん | 5%以上 発熱、局所の発赤 5%未満 倦怠感、局所の硬結 0.1%未満 多型紅斑 | 0.1%未満 アレルギー反応等、 無菌性髄膜炎 |

質問・連絡先

不明点がありましたら、担当した医師までご連絡下さい

〒162-8655 東京都新宿区戸山 1-21-1
 国立国際医療研究センター病院 トラベルクリニック
 電話：03-3202-7181 03-3202-1012（直通）